



自治会加入促進を市としても後押しを

佐藤 旭浩 議員

他自治体を参考に検討する

市民協働部長



▲兵庫県明石市自治会加入促進チラシ

問 ごみ集積所に関して、自治会からどういった要望、意見があるのか。

答 他地区からのごみの持ち込み、分別方法等のルールが守られていないごみへの対策や自治会未加入世帯のごみ集積所の利用についての相談がある。

問 市内における自治会の未加入世帯の状況をどのように把握しているのか。地区ごとの加入率は

把握しているのか。

答 令和4年度に実施した自治会、町内会に関する調査結果によると、加入世帯数は2万197世帯に対して、未加入世帯はおおむね3千世帯。佐屋地区89・4%、立田地区82・9%、八開地区83・3%、佐織地区84・9%。令和2年度以前は加入率の調査は行っていないが、今後は2年ごとに調査を行ういく。

問 他自治体では、自治会の必要性やメリット、加入促進における役割分担や自治会長が自宅に訪問する時に使える挨拶文などのテンプレートがあり、自治会加入促進を市として地域を後押ししている取り組みもあるが、本市も導入の検討は。

答 他自治体で加入促進のためのガイドブックを作成していることは把握している。有効であると考え、自治会の負担軽減にもつながるため、他自治体を参考に検討する。

の方に1回2千円、稲沢市が中学生3年生のみを対象に1回2千円を実施。

問 本市の中学生の総数は。

答 中学1年が498人、中学2年が543人、中学3年が540人。

問 中学3年生にインフルエンザ予防接種の助成を行うと予算はどの程度か。

答 1人当たり千円と想定した場合、令和6年度は54万3千円、7年度は49万8千円、となる。

子ども達へ健康管理対策を

問 子どもに向けたインフルエンザ予防接種の助成を行っている自治体は。

答 あま市、弥富市、蟹江町が1歳から中学3年生までを対象に1回千円、飛島村が65歳未満の全て